

「森と水のシンフォニー岩泉」と大きく書かれた看板を見て、岩泉町に到着したことを実感。真夏の日差しを強く浴びながら今年も交流事業に参加しました。胡桃の木の葉が黄色に色付く景色を眺めながら延々とバスで走り続け、岩泉の広さと森林に癒やされながら1日目の龍泉洞散策、2日目の育樹祭と被災地視察。今年には新しい企画でツリークライミングもありました。

岩泉町は9960人で超高齢社会。地区によつては50%が高齢者とか。産業や人口減の話しを聞きながら田老町の防波堤に立ち、仮説住宅から殆どの人たちが被災者支援住宅または、自宅建設・移転へと復興している様子を町の職員から説明され、昨年よりも復興された様子の中にも大きな津波の被害を残す物もあり、自然への畏敬の念を抱く見学でした。

宮古市ではバイオマスやソーラー発電など自然エネルギーに力を入れているとの説明を

聞きながらメガソーラーパネルが設置されている様子を目の当たりにして、電気エネルギーの大消費地である東京では人口が多すぎてできないことも、11万人口の昭島市ならできることが、もっとあるのではないか。農地を活用してのソーラーパネル設置。多摩川の風を活用した風力発電。土地の高低差を活用して湧水・地下水を活用した少水力発電など。

『いなか都市 昭島』の環境課題は何か

幸い地下水100%の水道水を飲み水とし、湧水も減っては来ているが触れることのできる場所がある。現在も水のプロジェクトが組まれているが、事業だけでなく、学習・市民活動・文化の分野にもっと水をテーマに取り入れるべきではないかと、今回の岩泉訪問を通して改めて感じました。

参加された方々と交流できたのも大きな成果でした。ただ、来年度以降は、もっとこの交流事業の目的・意義を明確にして欲しい。

20数年前の『TAMAライフ21』の交流から始まった岩泉との交流が今までつながっているという経緯も参加者の共通認識にして欲しい。

私自身、環境学習講座の企画運営に関わっている中で、「水は命の源」と再認識し、水生生物、水辺の虫や鳥など「水」をキーワードに学習講座を組んで行きたい。
